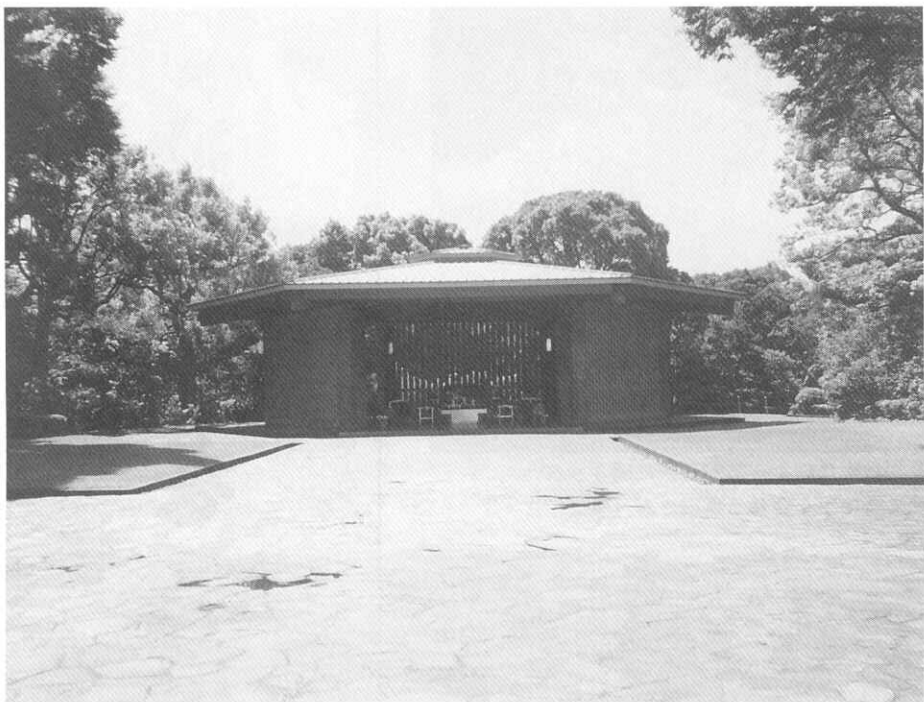


戦没者慰霊 高まる全国的な動き(2)



東京都千代田区千鳥ヶ淵戦没者墓苑六角堂
わずか六坪程度のスペースに35万体の戦没者の遺骨が納められている



六角堂の裏側には雨ざらし、日ざらしの1万5000体の納骨室がある
立入り禁止の厚生省の立札はあるが

戦没者追悼を正す全国連絡会を発足

会則

一 呼称
この会の名は「戦没者追悼を正す全国連絡会」とする。

二 目的

この会は、戦争で犠牲になった軍人・軍属らの慰霊・追悼に関する国の事業が不十分、不適切で、違法の疑いさある現状を改め、正しい追悼環境を後世に伝えることを目的とし、当面次の四項目を国に求める運動をする。

(1)戦没者遺骨収集体制の強化と継続
(2)収集遺骨を遺族に返すためのDNA鑑定

評議員 若干名
会計監査 二名

三 会の構成
(1)会員
この会は団体会員と個人会員より成る。
(2)役員
次の役員を置く。役員は個人会員と加入団体が推挙する人の中より総会で選ぶ。役員任期は二年とする。

四 運営
毎年一回定期総会を開いて報告し、運動方針と会計の承認を得る。必要に応じて臨時総会を開く。役員間の相互連絡と会員の協力により運動を進める。随時会報を送付する。

五 事務局
この会の事務局をつぎに置く。
〒一六五-〇〇二六
東京都中野区新井四-四一五-〇二
山野房子(南十字星会)
TEL&FAX
〇三(五三四三)二二一七

六 運営費
この会は年会費により運営する。個人会員の年会費は二万円、団体の年会費は二万円とする。

七 報酬
この会の運動では、役員、会員共に一切報酬を得ない。

副会長 一名
理事 若干名

厚生労働大臣に要請書

要請書

私達は本日「戦没者追悼を正す全国連絡会」を発会しました。
この会は、主として厚生労働省により行われる戦没者の慰霊、追悼に関する諸事業が、不十分、不適切で、違法の疑いさある現状を、根本から改めて頂く運動をする会です。

厚生労働省は昨年、遺骨収集事業を終わらせる方針を打ち出しました。未だ百万体以上の戦没遺骸を各地に残したままで収集を終わらせるとは、遺族らは納得できません。夫を、父を、兄弟を返して下さい。
一九九九年七月以降に収集された約四万五千体の遺骨は、身元調べのために

DNA鑑定可能な状態にあります。「戦没者遺骨のDNA鑑定に関する検討会」では、その全てをDNA分析することについて、「倫理的に許されるか？」などと論じられていますが、私達遺族の立場で聞くとナンセンスです。四万五千体の遺骨は厚生労働省の霊安室で「俺たちを早く調べて家に帰せ」と叫んでいます。四万五千体の一体でもDNA分析せず、千鳥ヶ淵に合葬すれば、身元調べの手掛かりを剝奪したことになり、倫理的に許されません。兵士の遺骨のDNAを調べるのは、かつて彼らが身につけていた認識票の番号を読み取ってやる事に相当します。それをせずに「身元不明」にしてはなりません。現在霊安室にある四万五千体は「身元未確認」ですから、確認作業をして下さい。そのために来年度予算では全面的なDNA鑑定に向け十分な費用を計上して下さい。

千鳥ヶ淵墓苑は「墓地・埋葬等に関する法律」の上で死者を葬り得る「墓地」ではないことが判明し、千代田区が埋葬(改葬)許可を出さないことになったが、厚生労働省は「許可は無用」と法律を真つ向から無視して去る五月十九日夜間に四百八十八柱の納骨を強行した。そのような違法行為を来年も再来年もしますか？

厚生労働省は「千鳥ヶ淵墓苑に納骨した」と言いますが、日本国民の間で「納骨」とは個々に骨壺に入れた遺骨を丁寧に納骨室に入れることです。しかし千鳥ヶ淵では何百

何千の遺骨を一緒に、まるで砂利を扱うように入られます。その実態は「戦没遺骨の最終処分場」です。死者の尊厳を保つて葬るのが生者らの務めです。
戦後五十七年、我が国には戦没者を葬り得る墓地が未だに一つもありません。そろそろ否、否、至急に一つだけでも造って下さい。戦没者の国立墓地を造って下さい。

厚生労働省は、戦没者の名簿をどれだけの数、正しく把握していますか？それが不十分では今後DNA鑑定などに際し、遺族への連絡など適切に対応できないでしょう。都道府県を持つ名簿などと連携を取れるIT化、ネットワーク化をお願いします。

詳細はここに添付する戦没者追悼を正す全国連絡会 発会趣意書をお読み下さい。私達の意をお汲み取り下さり、諸問題の改善に取り組んで頂きたく要請します。

を語り継ぐ会会長 連絡先
川副正敏 (弁護士) 事務局
事務局長
〒一六五-〇〇二六
東京都中野区新井四-四一五-〇二 山野房子
TEL&FAX
〇三(五三四三)二二一七

沖縄戦没者遺族さがし
戦後四十余年間沖縄戦における、戦没者の遺骨や遺留品を捜しているという、沖縄県那覇市在住の国吉勇氏の存在を新聞で知り、八月十七日国吉氏が設立した戦争資料館を訪問した。
そこには、国吉氏が四十余年かけて収集した数万点の遺留品が展示してあった。
その中で、氏名が判断できるものだけでも、遺族に返したいので協力を依頼したところ、快く引受けて頂いた。
早速厚生労働省に調査依頼をすると共に、本紙でも会員の皆様に紹介いたします。
お心あたりの方は、本会事務局まで一報ください。

判別できる氏名と発見場所(遺留品名)

小林和定(ビニール製認識票)
石坂辰雄(ビニール製認識票)
金子巳千衛(定規、法領田(三角定規))
護部隊海軍・大見謝(ビニール製認識票)
大西隊及川(石鹼入れ)
大里陣地・川口(将校用飯盒)
摩文仁岳陣地・松森、木島、前田(印鑑)
仲座陣地・高橋(印鑑)、仲座原野で良廣(印鑑)
経塚陣地・瀧野(印鑑)、藤岡中將塚で今川(印鑑)
真栄里塚で山口(印鑑)、真栄平塚で橋本(印鑑)
国吉陣地塚で奥間(印鑑)

なお、部隊番号のみの認識票が数十点保存されているので、厚生労働省に保管されている留守宅名簿と近く照合の予定です。



戦没者追悼を正す全国連絡会
名誉顧問 村山富市
(元内閣総理大臣)
顧問 田 英夫
(前参議院議員)
会長 塩川正隆
(戦没者を慰霊し平和を守る会 副理事長)
副会長 秋山格之助
(真嘉比壕戦死者 遺族の会 代表)
理事 青柳幸司
(南十字星会 会長)
NPO 岩淵宣輝
(太平洋戦史館 専務理事)
山野房子
(南十字星会)
高田俊秀(沖縄戦